



赤羽別院報 第31号
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
 Tel・Fax (0563) 72-2308
 Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

正信偈に学ぶ



「正信偈」は真宗門徒にとりまして最も身近なお聖教であります。親鸞聖人の代表的な著作であります「教行信証」の「行巻」のわりに収められています。正しくは「正信念仏偈」と申しまして、宗祖の率直なお気持ちとお念仏の教えに遇えた喜びを表わした歌なんです。これを日々のお勤めとして用いるようになったのは、蓮如上人の頃からだと言われています。

観想念仏

この「正しく念仏を信じる偈」であります。念仏というのと私は「南無阿彌陀仏を称えること」であると思えます。ところが、中国に伝わってきた時の念仏は「観想念仏」と言います。修行に励んで、心の中を静かな状態に保って、無我の境地で阿彌陀仏を念じて、浄土に往生することを期するというのが念仏なんです。有名なのは「常行三昧」という行です。三昧というのは心を安定させて集中することです。雑念や妄想を全部取り払っていくんです。これは容易なことではなく、ものすごく訓練がいるんです。常に阿彌陀さまのことだけを思い、九十日間ずっと同じところを歩き続けるという行です。かつて、親鸞聖人も比叡山の常行三昧堂の堂僧をして

称名念仏

「おられたと伝えられていますが、強い意志と体力が必要で普通の人には無理です。そもそも、お釈迦さまの教えは特別ではなくて、誰にでも当てるべき教なんですよ。ですから、この念仏に疑問を持たれたのが善導大師です。それまでは、九十日間ひたすら歩き続けるのが念仏であると誰も疑わずに思っていたのですが、善導大師はこれをおかしいと思ってお経を何度も読み直されたら「観無量寿経」に書いてあったんです。「無量寿仏の名前を称えなさい」と。これが念仏だと気がつかれたのです。善導大師のおかげで修行の念仏から、阿彌陀仏の名号を称える「称名念仏」になったんです。「善導独明正意善導さまだけが、お釈迦さまの正しい心を明らかにされたのです。」「正信偈」の中で讃えておられます。

宗祖の念仏

阿彌陀仏から私たちは念仏をプレゼントされているというのが、宗祖が授けられた念仏であり「専修念仏」とも「他力の念仏」とも言います。念仏を称えるか称えないかは、私たちが決めることではないのです。とても誠実で実直な宗祖が自分で決めてくださったとしたらどうなるか。その一点を非常に厳しく見られた。人間というのは、まっ白で純粋な気持ちで物事を決めることはできない。知らず知らずのうちに自分の都合や利害が絡み、野心みたいなものがどうしてもついてしまうものです。宗祖も、実は自分の醜さに気がついて、何をやってもだめだと絶望しておられたのです。ところが阿彌陀さまからの声をお聞きになって気がつかれたので「あなたには余計なことをしなくてもいい。あなたのような愚かな人間が張り切つて何かをやつてはだめで、やめておきなさい」と。それで宗祖はどなたか阿彌陀さまにおまかせします」という気持ちで、南無阿彌陀仏を受けとられたのではないのでしょうか。



講師プロフィール
古田 和弘 (ふるた かずひろ)
 1935年(昭和10年)京都府に生まれる
 大谷大学教授を経て
 現在 大谷大学名誉教授
 九州大谷短期大学名誉学長
 著書 『宗祖親鸞聖人に会う』
 『涅槃経の教えー「わたし」とは何かー』
 『正信偈の教え』
 ほかも多数

回向

我々が望む結果は浄土往生です。浄土に生まれるという結果を我々は受けようとしています。もし、自業自得としたら自分の行いが原因となりませんが、親鸞聖人は愚かな人間は原因をつくることはできず、原因は全て阿彌陀さまがつくり、我々は結果だけを受けとればいい。それが他力の念仏なんです。回向は凡夫の仕事ではなく、仏さまの仕事であります。

偈前の文

「しかれば大聖の真言に帰し、大祖の解釈に聖して、仏恩の深遠なるを知りて、正信偈を作りて曰わく」
 お釈迦さまの真実のことはを振りどころとして、七高僧の解釈を拝見し、仏の恩が深くて遠いことを知って「正信偈」を作られたのです。つまり「正信偈」は、親鸞聖人が阿彌陀さま・お釈迦さま・七高僧(龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空即ち法然上人)の方に對し、感謝の気持ちを捧げておられる歌なのです。人間は感謝しているときが一番幸せでうれいのです。

門徒の声

弔辞

去る二月、私がお世話になった小学校の先生がお亡くなりになり、親族の方から弔辞の依頼がありました。

「弔辞を頼まれたら、お受けするのが礼儀」といわれておりますが、弔辞をささげるに相応しい方が多くおみえになると考え固辞したところ、やむなくお受けしました。私は、弔辞は初めてのことなので、当日は早めに式場に出向いて、導師への儀礼や弔辞を読む折の作法を教えてくださいました。弔辞の出来がよくなりました。弔辞の出来が決まる、と言われ、大きなプレッシャーになりました。大ホールでの私の席は前列に用意され、今までの私の人生になかった程の緊張の中でその時を待ちました。先生の遺影をみていたと、繰り返しこみ上げてくるものがあり、何度も弔辞の文がぼけてしまいました。何とか先生にお別れとお礼を申し上げることができました。この後焼香となりました。くほつと落着きました。「先生ありがとうございませう。私は心のなかで力強く叫びました。先生は、最後まで私に訓練の場を与え、尊いご指導を下されたのです。先生の庇護のもと大役を果たすことができました。自分なりに得心し、些かの自負心を持つことができました。改めて、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。」

平成24年1月24日
 第1回真宗講座
 古田和弘師講話要旨

別院行事のご案内

| | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|--|---|---|
| 夏の御文 げのおひらみ 7月15日(日) 午前10時・午後1時 法話 第11組 淨徳寺 太藤 順誼師 | 赤羽別院宗敬区域世話会 7月15日(日) 時間未定 | 晩天講座 ゼットウシヨウキョ 8月26日(日) 午前6時 講師 第8組 安楽寺 伊奈 祐誼師 8月27日(月) 午前6時 講師 第15組 明水寺 鈴木 聡師 | 秋季彼岸会 しゅうきびがんえ 9月22日(土) 午後1時 講師 第14組 専興寺 浅野眞理子師 9月23日(日) 午後1時 講師 第12組 了願寺 藤谷 信雄師 9月24日(月) 午後1時 講師 第10組 願正寺 三村 謙作師 | 報恩講 ほおんこう 10月14日(日) 初夜夜 午後1時 法話 第6組 専興寺 楠 理見師 10月15日(月) 日中 午前10時 法話 第17組 西岸寺 松林 了師 10月16日(火) 結願早朝 午前10時 結願日中 午後1時 法話 第3組 専念寺 羽向 智洋師 15・16日はお斎の用意をしております。お誘い合わせのうえお祈り下さい。 | 晨朝法話 じんしやうほつわ 7月13日(金) 第11組 善福寺 山背 隆文師 7月28日(土) 同 聖蓮寺 泉 敬祐師 8月13日(日) 第12組 淨念寺 吉良 優師 8月28日(火) 同 本誓寺 足利 憲師 9月13日(木) 第13組 明榮寺 小谷 香示師 9月28日(金) 同 養林寺 東脇 芳華師 10月13日(土) 第14組 光輪寺 高木 眞正師 10月28日(日) 同 報恩寺 石川 勇吉師 |
|---|-------------------------------------|---|--|---|---|

18名が仏弟子の仲間入り 帰敬式執行

帰敬式、古より「剃度の式・おかみそり」といわれ親しまれてきた儀式です。法名をいただくとは「仏陀の教えを道として生きるものとなります」という決断の儀式ですから、人が命を終るまで生きることではありませぬ。

「生まれた意義と生きるよさを見つけてよ」
それは決して特別なことでなく、共に、普段の生活の様々な関わりの中に出会い、問われているのかも知れません。今年も満開の桜の中で十八名の方が受式されました。



お刺刀

桜花爛漫の四月十一日、鎌倉・信徳院殿ご執刀のもと帰敬式が執行されました。受式者は肩衣を身に付けて、お刺刀の儀を受けられました。



受式者誓いの言葉

めながら、この私にまで教えを伝えて頂いた多くの方々の「恩を懐いてつぎ生きていきます」と述べられました。

また、鎌倉はつぎのお言葉を加えられました。

「つぎとつぎ」という仏典童話があります。

うさぎが、冬に備えて木の葉を蓄え、目印に雲を選んでその下に隠れました。しかし、目印の雲は流れて全ての蓄えを失ってしまいました。

これは、不確かなものを頼りにしてしまふ私ではないでしょうか。そんな私を気づかせて頂けるご縁が帰敬式であります。今日の日を忘れず、大切にお暮らし下さい。

第二にお誕生といわれる帰敬式に出会い、既に法名をお受けした我が身と照らし合わせ冷や汗の流れる思いでした。真宗門徒として、法名を賜るとはどういうことなのかを考えたお話し、得がたい機縁を頂戴致しました。

岡崎教区教化委員会が主催する公開講演会が、百六十余名もの聴講のもと、五月十七日赤羽別院において開催された。

福島県いわき市在住の仙台教区仏教青年会副会長・藤内淳心師による、「3・11後の歩み〜フクシマを福島へ〜」をテーマとするもので、自ら経験され、今なお続く被災者として悲しくて辛い思いを切々とお話しされた。

がボランティアの本来の姿であると痛感した。妊婦であった妻と幼い子供を、震災後一時大阪へ避難させたが、いよいよ福島へ帰ると決断したとき「お父さん・お母さん、お前たちを被爆させねばならない。ごめん」と謝ったという。

放射能汚染を、東京電力や政府のせいにして、批判や反対をしないで便利さと豊かさを求めてきた我々にも責任があり、最後に講演のテーマにある「フクシマ」について、「ヒロシマ」「ナガサキ」に続く「フクシマ」であると言われた。

即ち、原爆の恐ろしさを知りつつも、原子力を受け入れた日本であり、その結果、被災地としての「フクシマ」となった。私たちは、この事実を重く受けとめて、決して「フクシマ」の次を作ってはならないのである。

〜フクシマを福島へ〜 藤内淳心師をお迎えし 公開講演会

震災後「今、自分達にできることは何か」と考えて始めた「B.O.P.・仏青お風呂プロジェクト」は、泥だらけになっても風呂に入らなかつた人たちが、ドラム缶の代用風呂でホット笑顔を取り戻した写真を見るにつけ、思ったことを行動に移し喜んでいただける、これ



蓮成寺・青木師が、それぞれの思いを仏法に照らし語られました。

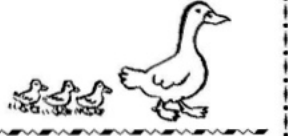
「昨今、お寺の行事で参拝者が増えていくのは彼等、今の時代だからこそ、改めて仏事の意味を学び、我が身が念仏を頂ける身にした事への講演法要

地域ブランド/伝統的工芸品 経済産業大臣指定

三河仏壇

西尾地区 広告協賛組合加盟店

| | |
|----------|---------------|
| 浅井 仏壇店 | (0563)52-1841 |
| 永代 屋 | (0563)56-1659 |
| さきばら 仏壇店 | (0563)57-4576 |
| 杉浦 仏壇店 | (0563)57-4743 |
| つちや 仏壇店 | (0563)57-3576 |
| 大和屋 仏壇店 | (0563)57-5544 |
| 渡辺 佛壇 | (0563)57-3965 |



春季彼岸会を厳修

去る3月20日から3日間、赤羽別院では春季彼岸会がお勤めされました。例年になく寒い法会となりましたが、多くの方が参拝されました。

法話では、初日に安住寺・雲英師、中日に福正寺・本多師、三日目には

うなぎ割烹

三水亭

みかわ

電話 0563-72-8817
西尾市一色町坂田新田

http://www.mikawasuisankakou.jp

戸松憲仁師の法話 報徳会厳修

本年の報徳会は、帰敬式に引き続いて、信徳院殿ご参修のもとに厳修されました。帰敬式の後、手作りの温かいお茶をいただき、皆さん一緒に穏やかなお顔をしてお話ししました。

勸行の後、第11組正念寺門徒・金原誓氏より感話があり、日暮しのなかで奥様の「どうもありがとう」との一言で、有難しということを実感し、お念仏を申すことで区切りある生活を心がけていると話され



戸松師の法話

命さえモノ化され、数量で認識し、自分という我は本当に私なのでしょうか。私の都合で自と他を分け、私の考えようのない私までであると思ってしまう。病あつてこそ健康が光る。死あればこそ生が光る。いのちの源から生れいのちの源に還っていく。無量寿、つなごうたいのち。そこから出てきたのだから、そこに還っていくのだ。そこらあたりの問いを頂戴することとなった有難いお話でした。

第2回 法式研修会を開催

厳冬の2月15日、赤羽別院では平成23年度第2回法式研修会が開催され、若年層を中心に約20名が参加されました。

今回は儀式部の企画・立案により「葬儀式をテーマとするもので、スタッフである織田顯慶師を講師として「読経」を中心の実践的な、熟の入った研修となりました。

「宗教は行動様式」という言葉がありますが、正しい作法を学び伝えることは、正しい教えを伝えるに不可欠な要素です。

この会の継続と、より多数の参加が望まれます。

仙台屋仏壇堂

仏壇・仏具・墓石

| | |
|------|---------------|
| 刈谷本店 | (0566)24-7841 |
| 阿久比店 | (0569)48-3733 |
| 半田店 | (0569)24-8550 |
| 東海店 | (052)689-7311 |

URL <http://www.sendaiya.co.jp>

歴史に親鸞聖人七五〇回御遠忌法要

東西本願寺三河若手僧侶有志の会

「混んの中に、いま未来の扉をひらく」をテーマに三河の東西本願寺若手僧侶有志による、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が碧南市・応仁寺にて厳修された。物質的豊かさを得た今日ではあるが、どこか生きづらさを感じずにはいられない未法濁世の平成、真宗伝統の土徳に恵まれたこの三河において、もう一度「南無阿彌陀仏」に我を聞き、「念仏」を称える身に帰ることを願っての法要が盛会裡に執行された。

五月二十七日、真宗中興の祖・蓮如上人縁りの西端町の応仁寺は、終日大勢の参拝者で賑わいをみせた。法要は午前にお東(大谷派)、午後はお西(本願寺派)のお勤めが執行された。それぞれのお勤めの後、お東は「三河すーぱー絵解座」による親鸞聖人御絵伝の絵解で、初席の徳永町・



椰野師による絵解き

浄土宗浄名寺松原妙蓮師に続いて、座長の楠村町・本澄寺住職椰野明仁師が琵琶の音を混じえての迫力満点の絵解法座となった。午後のお西では、一色町・普光寺住職西脇眞眞師が結成された5人の法話楽団「迦陵頻伽」による音楽法話で、参拝者も童謡などを一緒に合唱するなどユニークな講座となった。楽団名は「妙なる美声で法を説く極楽浄土の鳥」に由来する。法要を挟んで行われた稚児行列には、四百名もの稚児が康順寺から応仁寺へ五百米の道程を行進した。また、応仁寺の境内では、屋台店などが並び、お茶席



迦陵頻伽の音楽法要

第8組 誕生児初参り式

清々しい春の一日となった4月24日、第8組・安楽寺では定例祠堂法要がお勤めされ、午後から本年度の「誕生児初参り式」が執行された。一般参拝者の皆さんのあたたかい拍手に迎えられ、4名の誕生児とお母さんが御本尊前に整列された。全員が一歳未満であり、時々発せられる「ウーウー」「フニャフニャ」の音が本堂を和やかにし、普段のお寺の雰囲気とは違い暖かさを感じる法要となった。住職の「みんなみんな嬉しいているたつた一つのいのち」という表白に始まり、子供さんの名前が呼ばれると、一族ずつ前に進み焼香をされた後で、それぞれに記念の一品が贈られた。



誕生児とご家族

この法要は、候補衆徒である恵祐師がお誕生になった年からのお勤めされており、今年で三八回を数え、多い時では十名以上という年もあったが近年では次第に少なくなっているとのことである。その中で、本年は住職のお孫さんである悠真君が参加されたこともあり、住職の穏やかな笑顔がひととき印象に残る法要ともなった。お寺の行事としては数少ない行事であり、若い母親にとっては自身が初のお参りという方もあり、この先、お寺との関係やお念仏への取り組みの第一歩となることを念じる次第です。

Tel (0563) 72-1701 (代) Fax (0563) 72-1785
 〒444-0495 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中113番地1

URL <http://www.takasu-hp.or.jp>
 E-mail info@takasu-hp.or.jp
takasu@illac.ocn.ne.jp

- 高須病院 Tel (0563) 72-1701 (代) Fax (0563) 72-1785
- 血液透析センター Tel (0563) 72-0830 Fax (0563) 72-0829
- 高須病院 通所リハビリセンター Tel (0563) 72-1701 (代) Fax (0563) 72-1714
- 介護老人保健施設 高須ケアガーデン Tel (0563) 72-1985 Fax (0563) 72-0501
- 高須デイサービスセンター Tel (0563) 74-1077 Fax (0563) 74-1078
- グループホーム高須 Tel (0563) 74-2071 Fax (0563) 74-2072
- はず訪問看護ステーション Tel (0563) 72-0877 Fax (0563) 72-0527
- 訪問介護
- 高須ヘルパーステーション Tel (0563) 72-0531 Fax (0563) 72-0535
- 居宅介護支援事業
- はずケアサービスステーション Tel (0563) 72-0528 Fax (0563) 72-0717

どんなお寺にしたいのか? 第14組 教化委員会

余寒の厳しい2月25日の夜、第14組教化委員会が主催する、第52回社員対象真宗講座「門徒によるリレー感話と法話」が同組専興寺を会場にして催されました。



ご門徒さんの感話

今回の講座では、「どんなお寺にしたいのか」という課題のもと、光輪寺という講題のもと、光輪寺門徒・松原収氏、専興寺門徒・竹内勝宏氏、常福寺門徒・大河内洋美さんの三名が、満堂のなかで堂々と感話をされ、お寺とのかかわりや想いをお話になりました。

その後、名古屋教区教化センター主幹・荒山淳師が、三名の感話の内容に触れながら、仏事やお寺という場のもつ意味とつながりを話されました。感話のなかで一仏法を学ぶだけなら本がたくさ

ご門徒さんの感話

余寒の厳しい2月25日の夜、第14組教化委員会が主催する、第52回社員対象真宗講座「門徒によるリレー感話と法話」が同組専興寺を会場にして催されました。

今回の講座では、「どんなお寺にしたいのか」という課題のもと、光輪寺という講題のもと、光輪寺門徒・松原収氏、専興寺門徒・竹内勝宏氏、常福寺門徒・大河内洋美さんの三名が、満堂のなかで堂々と感話をされ、お寺とのかかわりや想いをお話になりました。

エッセイ 赤い羽根の青い鳥

幸福の象徴である青い鳥を探してチルチルとミチルは旅に出るけれど、その鳥は我が家にいたという『青い鳥』の物語。

そんな彼らのように「故郷にこそ大切なものがある」と思っているのかどうか知れないが、今夏もまた「民族大移動」の時期である。大洗滞でグッタリした人たちをテレビで見ると「大変だねえ」と同情する反面、「俺たちは暑い中、お盆参りで走り回っているんだから、みんなも少しは苦労すればいいんだよ」と底意地の悪い気持ちでフツフツと沸き起こってくるのもまた事実。

旅は人を成長させるという。『青い鳥』の物語でいえば、彼らは旅に出たからこそ「青い鳥は我が家」にいたんだと気がついたのではない。

人間というやつは、迷いや悩みを抱えての歩みがある。『青い鳥』が我が家」という足下に真実があると、いかに気がつくのかも、そして、そのことを気づかせ、私の「帰るべき場所」(本当の自分)を教えてください。としか言いようのないものなんだらうと思う。

そうすると、泥酔しても我が家にちゃんと帰ってきてくれるのは、その働きのおかげ……なれないか……やれやれ、今年の夏も暑くなりそうだ。お盆参りが思いやられる。

大切な法衣をはじめ、法要に必要な用具を持参するのに最適なケースです。

引き出物に最適!! A4サイズ 15,225円(税込)

オリジナル仕様のケースをお作りします

ご希望のお客様に法衣ケースのカタログを送付致します。お気軽にお問合せ下さい。

http://www.actec1972.co.jp/

ACTEC アクテック株式会社

〒573-0102 大阪府枚方市長尾家町3-10-10
 TEL: 072-857-0898 (代) http://www.actec1972.co.jp/
 FAX: 0120-898-001 (フリーダイヤル) mail: actec@actec1972.co.jp

蓮如上人と大浜騷動縁りの

碧南市池端・蓮成寺を訪ねる (No.2)

古くは海に浮かぶ島であった碧城は水運の要所に位置し、この地に蓮如上人の三河下向により、成岩無量壽寺の道場として蓮成寺は発祥しました。

今回は、近代において蓮成寺が舞台となった事件、大浜(驚塚騷動)について住職、青木齋師より話を伺いました。

大浜(驚塚)騷動

江戸時代に成立した寺増制度に保護され順風だった仏教界も、明治維新により一転して激動の時代へと変わりました。

当時、大浜一帯を飛騨地とし陣屋を構えていた菊岡藩(旧沼津藩)は、政府の神道國教化政策に従い天拜日拜の強要・寺院統廃合の政策を推進しました。



宗教繪誌より
蓮成寺の鐘乱打の図

一方、宗門では変動する時代に対応すべく、キリスト教等新しいことを学ぶ護法場を設けました。

この学園所で学んだ石川台嶺・星川法沢らは、三河へ帰り青年僧で組織する三河護法会を結成し、菊岡藩の要求に対し「宗風あるまじき」と公然と立ちあがりました。

明治四年三月九日、暮戸会(岡崎)へ集った僧侶三十数名は、政策に恭順の意を示した寺院の糾弾と藩との談判のため、決死の覚悟で大浜へと向かいます。道中多くの門徒がこれに加わり、驚塚に到着した頃には数千人に膨れあがっていました。

人々を驚塚へ派遣し、庄屋宅において代表者による談判が行われましたが平等線をたどり、痺れを切らした僧侶や門徒は酒の勢いもあり、蓮成寺の梵鐘を乱打し始めました。

勢いに乗った一行は庄屋邸になだれ込み、役人一人を竹槍で殺害してしまいました。夜の闇の中で出来事、役人の刀による門徒側の怪我人も出て、蓮成寺僧侶には先祖が背中を刀で切られた事を伝える家があります。

騷動は、この後多くの僧侶や門徒が捕縛され、主謀者として石川台嶺の斬首、役人殺害の実行犯として門徒の神原喜代七の処刑・投獄された僧侶の内五名の獄死など悲劇的な結末をむかえました。

しかし、この事件を契機として政府は宗教政策を大きく転換させていきました。

このようにして、日本仏教の今日をもたらしたともいえる事件・大浜騷動の表舞台となったのが蓮成寺であります。

最近では、子供に人気のある職業ランキングの上位を占めるものに「大工」があります。

今回は、宮大工さんで仏教信仰に篤い思いをお持ちの西尾市下羽角町在住、杉浦 康さんを訪ねていろいろ話を伺いました。

宮大工に就いたのは？

伊藤 平左衛門の作

家業が宮大工だったので中学校を卒業と同時に親父について修業しました。先代は神社の仕事を中心でしたが、私は寺院の仕事を中心に修業をいただきました。

これまでに記憶に残るお仕事は？

仏教興隆に力を尽された聖徳太子は、我が国の棟梁であるところから、太子を奉讃する「太子講」を組織し、関係者で定期的にお参りしてあります。

仏縁に関してお感じになることは？

仏縁の建築現場をご覧になって頂くことにより、お出がめですが、吉良の良興寺の山門改築では、名工

人間模様 その10



薫く語る杉浦さん

例年より遅れた桜の花が満開となった4月13日、赤羽ブロック坊守研修会を開催しました。

今年から、第14組坊守会が当ブロックに編入され、50名の方が参加されました。

動行の後、第7組心城寺住職・天野義敬師から「本願寺の聖人親鸞」をテーマに法話をいただきました。

師は本論に先立ち、お寺でお勤めする各種の法会に当たつての、坊守の心得について話されました。

報恩講などのお勤めはお寺にとって大切な行事であるが、準備や裏方の任務のため、当日なかなか本堂で参りできません。

赤羽ブロック坊守会代表 浄徳寺坊守 松平佐智子 説明を受けてから、開基・本目勝左衛門親宣の墓にお参りされました。

この後、三河随一の威容を誇る山門の二階に上り、楼上から別院の四圍を展望され、皆さん様に感動の面持ちで、門前での記念写真に収まり次の行程に向われました。

お御堂内で輪番から別院の沿革や活動の現況等の

第14組坊守会を編入 坊守会研修会を開催

お寺がお勤めする各種の法会や催し、シリースで取組むカルチャーウォークの取材等のため、崇徳区内のたくさんのお寺にお伺いしてきました。

そこで感じたことは、どのお寺も創意工夫をして、一人でも多くの門徒さんにお参りをいただき、仏法に触れ、親鸞聖人の教えに深く領受していただきたいという強い願いを持っているということです。

法会の執行に当っては堂宇・境内の清掃や各種荘厳等々、どのお寺も整然と行われており頭の下がる思いです。

広報部では、このように真宗の法義相続に励む寺院や別院の姿を誌面に表わすことが任務と心得て、編集活動に精励し一層の充実を期して参ります。

今後とも、広報部活動に対する格別のご理解と取材に対するご協力をいただけますようお願い申し上げます。

御坊俳壇

次号から模様替え
御坊俳壇・川柳に
従来の「御坊俳壇」に、投稿俳句・川柳を「御坊俳壇・川柳」に模様替えし、多数の投句をお待たせしています。

応募要領

一、部門
俳句の部
川柳の部

一、募集期間
両部門に応募可・部門を明示して下さい。

一、兼題
雑誌(自由)とするが、

一、応募方法
次号のいずれかの方法で応募して下さい。

一、応募箱(別院お御堂内に常設)

一、赤羽別院(郵送)(住所等は一面見出し下)

0563-72-2308
Eメール(アドレスは一面見出し下)

一、応募締切り
10月1日号 8月15日
11月1日号 11月15日
4月1日号 2月15日
7月1日号 5月15日

一、顕彰
優秀作品として、俳句10句並びに川柳3句に記念品を贈り、赤羽御坊新聞に掲載します。

一、その他
http://dhatenana.jp/kurpsibukai/

つつじ山香り仄かに羅いし
流経の流るる御坊花吹雪
一門の火鉢囲みて花見の座
夕映えの御坊の柱に春惜しむ
紫木蓮白に負けじと咲き競ふ
菊の根元の太きそれぞれけり
處村に花咲く冬締めぐりけり
朝の日に藤の花咲ゆ御坊かな
本尊は緑青阿弥陀梅真白
授談降るや御坊の深底

波辺 久恭
木多 映子
石川しづ子
新家ゆり子
近藤 貞子
杉浦みはる
榎山みどり
水頭うた子
中村 光見
岡田 董也

赤羽地域教化センターウェブ
http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/
仏事で困ったら...
携帯からのアクセスはQRコードから
お寺の法語掲示板をみてみよう

御懸志披露
赤羽御坊新聞懸志(敬称略)
・正向寺
・石原美根子
貴重なご懸志を
ありがとうございます

お寺の掲示板
人は 失つて
有ったことに
気がつく
第八組 福心寺